

## 社会貢献の年

升島 努

島津の田中さんがノーベル賞を受賞されました。おめでたい事です。僕にもあまりにも身近で、6月に初めて参加したフロリダでのアメリカ質量分析学会（ASMS）で、色々な欧米の教授を紹介するためエスコートして下さった人でもあり、共に、日本の質量分析や分析産業への期待と不満を語り合ったことが思い出されます。何か、今テレビを見てみると、今や別世界の人の様な気がしますが、本人は必死でいつもの自分に戻りたがっている風です。大変でしょう。でもノーベル賞をとったら、こんなに喜ぶ日本も、まだかわいいなと思います。お陰様で、14日の東京での質量分析の記念学会で僕がトリを勤めて檄を飛ばすはずが、田中さんの特別講演が急遽決まって、プログラムが変更になり、田中さんが言うてくれることになりました。良かった良かった。でも、この受賞は、国民に親近感を与えてくれています。我々の属する分析研究者にも、分析が意外にノーベル賞に近い分野である事も教えてくれ、この分野の人の心にも明かりを灯してくれたのではないのでしょうか。

今年は、社会貢献の年であったかもしれません。この一年間、本当に本来大学で為すべき以外の仕事をやりすぎました。列挙して見ます。ちっとも自慢では無く、反省を込めて。

### 産学連携ジャンル

- 1) 大学の社会貢献とくに産業界との連携の為に、霞キャンパスを中心とした「ひろしま医療ベンチャーコンソシアム」を形成しました。
- 2) 大学の研究者の特許を醸成し、守り、他大学より高い率で本人に報酬で返す仕組みを、強い発言で通し、研究者に大きく対価が還る広大独特の機構にしました。
- 3) 今当研究室の研究成果と特許を活用した新しい企業創生の為に、1億円の新産業創生の為の開発研究費を経済産業局より貰いました。今その立ち上げを行っています。新会社はHumanixといいますが、はたして僕の会社がスタートするのでしょうか？
- 4) 産業界や研究の、国際的な交互ライセンスの国際コンサルティング会社（本社アメリカ）のアドバイザーになるかも知れません。

### その他

- 1) 母校、浜田高校の同窓会年会での全体講演を頼まれ、今の日本と浜田の問題、未来の浜田への戦略を熱く述べさせてもらう機会を貰いました、そして、それに結構な反響があり、広島在住浜田高校同窓会でも、またやらされました。浜田市長さんが前回聞きそびれたと来られました。
- 2) 初めてテレビ番組創りに挑戦し、広大の「知」を紹介しました。テレビ番組のプロデューサーorコーディネーター役は結構自分には、はまる役だということを知りました。番組の中には、結構僕の考えた仕掛けが毎回入っています。楽しかったですが忙しかったです。10月30日最終回分（11月9日放映）のスタジオ撮りが終わり、RCCのスタッフの人達との打ち上げでは、開放感一杯で大騒ぎをしました。また、11月16日から同じ土曜日の早朝5:15~再放送するそうです(RCCも懲りない局ですねえ)。出番は初回と最後の最後ですが、それ以外に本当は、見えない形で、頑張っている所を批判下さればと思います。自分の姿は二度と見たくありません。

まるで、これに日付をすれば、今年の歩み的な感じですね。あきれたものです。

今、日本はちょっと狂っていると思います。不景気を打開する為に、あたらしい産業を興す、その為には、大学にそのソースを見つけよう、そして産官学連携だ、やれベンチャー創生だと躍起になって、大きなお金が投下されています。たまたま、それが僕の上にも落ちて来たという事です。大学で、そんなセンスを持って、シーズをもっていて、企業センスがあり且つ善良な人がどれほどいるのでしょうか？小さな事業をやって、その大変さや苦しさを知っている自分のようなケースはまれではないかと思えます。

大学も愚鈍です。社会に貢献しなくてはいけない、あれもやろう、これもやろう。大学そのものは、今までは社会に貢献する代物では無かったのでしょうか？そう文科省に聞いて見たいものです。これはもはや大学（University）ではない。教育研究株式会社にしか過ぎない。日本の大学というのは、そんなに底の浅い存在だったのでしょうか。私は、今年、上に書いた様な事をしながら、改めてこんな事を考え、深く反省しています。

ともあれ、その中から特に2つ取り上げて、くわしく舞台裏をお話ししましょう。

#### <新産業創生 1億円プロジェクト>

特許好き、アイデア好きな自分は、欲しい分析法の機器が余りにも高価なので、自作を考えているうちに、色々な特許を考えました。それを新機器開発のプロジェクトとして申請したら、何を間違ったのか、通ってしまいました。その額、2年間で1億円を越えます。さあ大変。

考えました。誰がこの貧乏人に「お前、この金返さなくて良いから、これで会社を興してみろ」と1億円ポンと渡してくれるのでしょうか。これは国民が今の苦しい中、借金をして僕に託したお金です。責任は大きいのです。もし失敗したら、本当に国民の皆さんに申し訳ないと思えます。

初めて協力企業みんなが集まった時に啖呵を切りました。「僕はこのお金でちゃらちゃらしたいいい加減な開発はやるつもりは無い。もし、お金さえ買えば適当に思っている企業が居たら、今すぐ退席して欲しい」と。この製作で少なくとも数十億の利益を上げて、国民に戻す、これが僕の今の目標なのですが、いささか自信がありません。ただ精一杯やるのみです。そしてもしそれが叶えば、その先には、さらに大きな戦略を抱いています。

幸い、この開発は、いままでの教室内でのささやかな開発と違い、大企業も含む企業連合で創るもの、製作の精度が違います。そして、その出来上がるものは、教室の研究開発で欲しいものでもあります。つまり、教室の研究も加速できる代物です。そう思いながら今は、前進しています。どうか、成功を祈って下さい。

#### <テレビ番組制作>

生まれて初めてテレビ制作に手を染めました。面白かった・・・・・・。でももう当分いい、が実感です。初めてなので、甚だ未熟ですが、やれることはみんなやって見ました。適当な人が見つからず、出演までしてしまい、それがかえって、創る側、演じる側の両方を一度に経験できる事にもなりました。

RCCのAスタジオに組まれたセット、そのセットの前で、冷や汗をかきながら、話す先生達（含自分）、そこには、カメラ4台、フロアマネージャーを含めて5人以上の人が僕の前に居られました。歳のせい、自分で創り上げたセリフなのに覚えられず、特に立ちの時は前に原稿もなく、不安で声まで小さくなる始末。上の調整室には、カメラを選んでいくスイッチャーや進行を司るタイムキーパー、作り込んだビデオシーンをタイミング良く番組内に入れ込む人、そして、全体の進行と出来を判断するRCCのプロデューサー

一とプロダクションの責任者、そして映像調整の方、テレビのスタジオ撮りは、実は、こんな大人数での大変な同時協同作業なのです。ここまで来るのに、どれほど長い打ち合わせがあったことか。何とRCCのプロデューサーの方は、広大スキー部の後輩の女性で、当教室に居たスキー部寺尾さんと同級生、奇遇です。その息の合った中で、各先生にやんわり製作意図を伝え、方向を決め協力して戴きながら、ビデオ材料創りのロケ、最後に先生の良さと個性を引き出すシナリオに仕立てる雰囲気作り等々、これを6回分続けた訳です。もう何十回RCCに行ったことでしょう。それでも、もし出来上がりに対し学内に文句があれば、それは全て自分の責任、学内の批判は全て僕が受けて立つつもりです。

でも今思えば、面白かったの一言、番組は生ものです。アナウンサーはプロですが、こちらは素人の出演です、ベストのものは出来ません、が、今までの大学の公開講座のパターンをうち破り、子供にも分かって貰えるような分かりやすさで、電子社会の未来とそこに居る人間への予言と考察を、大学の知として紹介できたのではないかと思っています。余り人の見ない時間帯であったにもかかわらず、見られた人からは、分かりやすかったとの評判を貰っており、それならと、このテープが広島の小中高等学校の教材として配られるかも知れません。そんな計画も持ち上がっていますが、はたして実現するのでしょうか？このメディアを自分の宣伝に使う輩が居るようですが、むしろメディアで発信することは、当たり前ですが、社会的に非常に責任の重い行為であることを強く感じました。

かれこれやっているうちに、早、田園通信の頃となりました。歳を取るとメモリーが悪くなり、日々の記憶が薄くなる分、月日が経つのがとても早く感じられる傾向にあるやに思います。皆さんも若いと思っているかも知れませんが、そのうち必ずやって来ますよ、その時思い出してください。それは、生理学的な理由からだとか誰かが言っていたと。

さて、教室には新しく平川先生を迎えて1年が経ちました。先生は、とてもしっかりときちりと物事をやって下さる方なので、発想と幼さで派手に立ち回る僕とは好対照、とてもお互い相補的な存在です（と都合良く僕が思っているだけかも、先生は良い迷惑か？）。お陰で、念願の1分子検出が可能となりました。共通点は、お互い根っからの車好き、二人が車談議を始めると何時間でも続きます。学生諸君はみんなきっとあきれて聞いて？いることでしょう。でも、ここでも教えて貰うことの多いこと。新垣君も、ここに来て好青年の生地を出せるようになって来ました（誰だまだまだと言っているのは？）。ここに来て、教室の雰囲気がとても良くなって来たと思います。僕も老いて？は子に従え、と学生諸君に対するモードもつい最近21世紀モードにバージョンアップ（ダウン？）しました。これがもう少し早く今年の4年生に間に合っていたらと思いますが、これも人生、人生は失敗の連続ですので、悔いることなく前進するのみと自らを慰めることにします。ただ、以前のモードで育った今までの卒業生が、本当に色々な所で、大活躍してくれていて、後輩達を導いてくれたり、また良い見本になって下さっていることは、本人の力と努力が全てとは言え、大変うれしく思っている所です。本当にありがとうございます。

今、教室は、1分子検出イメージングにも少し成功し、質量分析法の開拓を前面に出し、開拓者の道を歩もうとしています。いつもながら、このポジション取りに満足はしていますが、問題はどれだけの成果が出せるかにかかっているでしょう。

年々責任の重い仕事が増えてきましたが、今はそれも楽しめる範囲、この位で研究三昧の楽しい日々を送りたいものです。

プライベートには、今年は忙しすぎて、好きな日本画もままならなかったです。同級生や広大の職員の方々とやるゴルフは、まあまあ、あれから良くもならず悪くもならずと言う所です。ゆっくり和紙に泥絵の具、岩絵の具を置く時間がとれません。でも、今年訪れたトルコ（プライベート）、中国大連と上海近辺、アメリカの学会会場のフロリダとアシローマ海岸などではスケッチとその為のビデオ材料撮りは少し残すことが出来ました。これから暇を見つけて、これを本画に仕立てて行きたいなと思います。そうそう、フロリダでは、幸運にも、スペースシャトルの打ち上げにたまたま立ち会うことが出来ました。（夕立で3日延びて、我々が発表が終わった日の夕方5時過ぎの発射でした。日頃の行いの賜物と確信致しました。）パリパリパリと今にも吹っ飛びそうな音を立てて、オレンジ色のものすごい炎を出しながら、あのでぶっちょの物体が空間に浮かんでいること自体が不思議な上に、なんとすごいスピードで雲の上の青空に小さな点として吸い込まれるように消えて行った姿は、まさに感動でした。

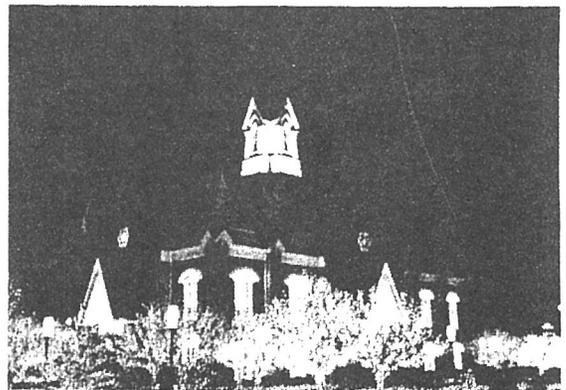
皆さん不景気などというお金や物欲に振り回されることなく、心豊かな人生とは、意味のある人生とは何かをふと考えて、求めるもののありかを、意外に足下に、身近に、気楽に探して見たらどうでしょう。そんな気のする今日この頃です。

皆様の健康と幸せ多い日々を、ここ広島の研究室から、心より祈っております。

平成14年11月6日 記



中国無錫より蘇州へ、運河の旅（Sysmex岡田常務と共に）  
「無錫旅情」の歌を口ずさみながら



ソルトレークはまもなくこの様な電飾で飾られる事でしょう。